

# 壁面 12

2023.1.20  
執筆発行／池田康

今日のつづきの明日ほど  
あらかじめ錆びた明日はない

\*

汀に打ち上げられた海難者  
として目覚めよ

朝また朝

立ち上がれない

自分の名前を思い出せない

おそろしい不安とともに

\*

海難者はかすかに覚えている

サイレンの歌声を

それをもう一度聴きたいと

また海へ

耳が彼を導く

\*

海難者は乙女に救られる

と物語はうたう

主人公ではない海難者は

一人で立ち上がるほかない

都合のよい聖なる乙女はいない

野良犬が小便をかける

鯨と鷗と鴉が狙っている

\*

海難者は立ち上がる

そして次なる海難へ向かう

綱渡りの綱はつねに奸計をちりばめて張られ

つねに落下する

それが荒海を渡る者の仕事

\*

船が二つに折れ 沈没し

海に投げ出され 大波に食われ

行方も知れず漂流

トトトツーツーツトトト

モールス信号も甲斐はない

行方も知れず漂流

\*

〈鯨〉と話したことがあると

海難者は語る

〈鯨〉は大きい

〈鯨〉の話ははるかに大きい

海の家系図だか

水の宇宙誌だか 定かではない

その神話の巨大な響きに

丸飲みにされ

微塵にされる

サイレンは〈鯨〉

〈鯨〉は京

遠洋の囁語

泡沫と渦の〈囁〉を語る

\*

沈没した船の影が海難者に追いつき

取り憑く

絶対に沈没しない船の幻が海難者を誘惑し

取り憑く

永遠の海を目指して

海難者ははてしもなく沈没する

\*

海難者が目覚めて見る空の青は

問答無用のあお

青というだけで絶対的な意味を持つあお

この青を見るために日々遭難するのか

海難者は目覚めた一瞬考える

頭ががんと鳴り

そして忘失する

\*

海難者はマストを立てる

海はあでやかに笑う

\*

海難者はくちずさむ

どこで覚えたのか記憶にない

その俚語をくちずさむと

ふるさとの方角がわかるような気がする

そちらへ向かう気持ちはないのだが

\*

頭の中の海図は日に日に薄れ

気まぐれな波の線の中に埋没してゆく

この波の中にいればそれでいいんだ

そんな怠惰な気持ちになつてくる

\*

いま再びの朝に目覚めるなら

海難者として

いずことも知れぬ汀で

目覚めよ

頭ががんと鳴る

\*

日々を送るは 綱渡り

と古の歌は教える\*

落ちない綱渡りはない

一日を生きるとは落下すること

綱にしがみつき

綱に振り落とされること

\*

海難にいたるほどの

猛烈な嵐をくぐる一日でないならば

それを生きるとは言わない

筋金入りの船乗りはうそぶく

昨日のつづきの今日ほど

気の抜けた今日はない

\*山崎ハコ「綱渡り」